

家政学雑誌における引用文献情報の解析(2) - Key Journalsの経年変化 -

大妻女大家政 岡本順子, 大森正司, 岡田守代 図書館情報大 佐々木敏雄
 東農大農 加藤みゆき 大妻高校 徳増しげ子 岐阜大教育 長野宏子

目的 家政学の概念は非常に難しく、被服、食物、住居、児童、経営、原論、教育に関する人間の総合科学として捉える場合と、狭義の家政学、すなわち、家事を中心とした諸科学を指す場合とがある。しかしそのいずれにしても、家政学が人間の活動およびそれをとりまく自然環境、社会環境を捉え、自然科学全分野から社会科学、さらには人文科学までを包括した科学であること、所謂、充電の科学であることは周知の事実である。今回は前報に引き続き、家政学雑誌における Key Journals (主要雑誌) の経年変化を調べることにより、家政学の特徴を明らかにすることを目的とした。

方法 前報と同様に家政学雑誌 1954年、1964年、1974年、1984年の全論文とその引用文献約 2200件を分析対象とした。各項目を抽出し、機械処理をすることにより集計、Key Journals (主要雑誌、その分野で核となる、2利用される雑誌群) の変遷、引用文献の寿命、引用頻度、頁の情報率、共用性、国際的流通性(和文、欧文誌の引用率)等について分析、検討した。

結果 今回は *Souva Journal* として家政学雑誌のみを対象としたが、本誌の引用度が高くなる傾向も高く認められた。また、経年的に引用数は増加しているが、引用率は減少の傾向であった。家政学雑誌以外の引用度の高い Journal は、織物誌、栄養と食糧、栄養誌、各大学紀要などであった。